

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892100047		
法人名	株式会社 長生		
事業所名	グループホーム 生き生き		
所在地	兵庫県高砂市米田町古新308-1		
自己評価作成日	令和 3年 9月 28日	評価結果市町村受理日	令和4年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action=kouhyou_pref_topijigvovyo_index

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市小花1-12-10-201		
訪問調査日	令和3年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナウイルス感染防止のため、外出・家族との面会も規制し、ご家族・利用者の皆様が寂しい思いをされておられます。本来ならば年に数回、外食ツアーを実施し、美味しい食事を企画、食が少ない方も沢山食べられ、気分転換にもなっていました。現在ではホーム内で食事工夫・毎日の生活の工夫をし、楽しみを作れるように取り組んでいます。又、体調管理を隣接する病院と連携して安心して過ごせる生活環境・終末期を迎えられる環境も作っています。ご家族とは状況の報告・連絡を常に行っています。又コロナウイルスに感染をしないように、職員それぞれが意識と緊張感をもち、予防対策に取り組んでいます。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、有床診療所やデイサービス等を併設しており、医師や看護師との密な医療連携により、地域の医療と福祉を担うとともに、利用者や家族の安心に繋がっている。理念である「優しい思い」を大切にして、事業計画により家族や地域との連携を強化し、安全・安心を心掛け、質の良いサービスを提供している。利用者の高齢化や重度化、コロナ感染拡大防止のため利用者の外出や家族、地域住民との交流等が途絶えているが、事業所内で出来る事を積極的に取り入れることに努め、利用者の生活の活性化を図ることを目指している。各種会議や研修の充実を図り、管理者を中心に全職員が利用者へ寄り添う支援に努めている。地域に根差した福祉の拠点という自覚を持ち、コロナ終息に向けて、歩んでいっていただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をもとに職員全員が優しい思いで実践すること心がけている。	理念は、玄関やユニット入り口、リビングや階段等に掲げ職員の意識付けに一役買っている。事業所のパンフレットにも掲載し対外発信もしている。職員は会議や日常会話の中で、自然に身に付いた「優しい思い」で、一人ひとりの利用者を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染の為、地域との会議・祭り等が途絶えています。	事業所は自治会に加入し、地域との交流を盛んに行っていたが、現在機会は少ないものの、毎月の自治会長の訪問は継続中である。事業所は地域のゴミステーションの掃除に参加しており、自治会からは町内で作成したカレンダーが届けられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で理解や支援を伝えていきます。町内会の掃除等も利用者で参加、協力体制を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染の為、地域との会議は中止していますが、資料・お知らせを配布繋がり続けています。包括担当者とは連絡を取り、意見をサービスの向上に活かしています。	運営推進会議はできていないが、事業所の取り組みやヒヤリハット、研修報告等を運営推進委員や全家族に送付している。開催時は、複数の家族や地域包括、地元連合会会長や3自治会会長、老人会や婦人会等多くの参加があり意見交換の場になっている。地域住民に認知症に関する理解を伝える場にもなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括担当者とは連絡を取り、意見をサービスの向上に活かしています。	市からの情報はメールで届き、事業所からの連絡もメール送信している。2市2町の事業所連絡会等は出来ないが、地域包括とは相談をする等交流の機会が多い。事業所間では、電話でグループホームの空き情報の確認等、情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が正しく理解してケアに取り組んでいます。	身体拘束をしない取り組みは、主任会議や運営推進会議で検討し、定期的カンファレンス等で伝達研修をしている。多くのヒヤリハット報告書が提出され、職員の意識の高さが伺える。意識付けと目配りにより、事故の防止と起こっても被害を最小限に抑える工夫をしている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や資料で学ぶよう取り組み、小さなあざでも、報告ヒヤリハットをもとに職員が防止対策を行っています。	虐待防止も定期的な会議等で職員に周知している。余程の危険を伴わない無い限り、利用者の行動の制限はせず見守っている。管理者は職員の一人ひとりに話を聴き、ストレスを溜めないよう働きかけている。今年度はリモートでの外部研修に参加した。	

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員がいつでも資料を見れるようにスタッフルームに置いて知識を学べるよう取り組んでいます。	以前成年後見制度を活用していた利用者があり、担当した司法書士より資料提供があり、職員は目にする機会が多く一定の知識を持っている。契約時には家族に伝え必要に応じ資料を渡している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	、契約・解約には納得いかれるようにわかりやすく、ご説明・ご理解頂いています。	契約は、管理者が時間をかけ丁寧に説明し納得を得ている。看取りは当たり前とし、その時期が来たら伝えるよう配慮している。利用者の状態に変化が生じ、利用者には不都合が予測される場合、居室替えの依頼をすることも伝えている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とは意見や質問等には常にお答えして、運営推進会議に持ち込み、皆様の意見を取り入れて反映しています	家族から個人的な要望等はあるが、運営に反映するような具体的な要望は少ない。毎年実施の家族会が出来ず、家族との交流の機会が少ない中、家族に用事を依頼し来所の機会を作る工夫をしている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場職員の意見を尊重し、質の向上に向けての会議を行い、サービスに反映しています。	日常のケア内容や、電化製品等の買い替えは職員からの提案でしている。季節毎の行事や毎月の「生き活きたより」は、職員が交代で作成し発行している。コロナ禍で出来ないではなく、コロナ禍だから出来る事を探し支援している。職員のモチベーションを上げる為、行事は大切と管理者は考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境や意見、提案も聞く体制も整えて職員個々の努力や実績、勤務状況を踏まえ就業環境を整えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受けやすい時間の配慮を行い内部も学べる機会を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスで会議はなくなりましたが、情報や他事業者に相談等連絡を通じてサービスの向上にとりくんでいます。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活環境が慣れて頂く為にご本人の観察、傾聴安心して生活が行われるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に入居前の生活環境を伺いご家族が求める事も取り組み、ご家族も安心して頂けられるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取りながらケアプランを作成、優先度を見極めプランに沿ってサービスを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共に暮らす生活環境を作りをしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の関係を、状況も細かく伝え繋がりも続けられるように努めています。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できるかぎり支援に努めています。	昨年からのコロナ感染防止のため、外出や家族、地域との交流が途絶えている。これまで家族と行っていた理髪店には、現在は月に1回訪問の理美容師が馴染みの関係になっている。最近、利用者がコンビニに行き買い物を楽しんだ。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はフロアでの利用者同士関わる環境をつくり安心して暮らせるように努めています。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も連絡が取れる支援に努める		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者お一人にあった生活が出来るように個別ケアに努めています。	入所時の家族からの情報を基に、日々のケアの中で一人ひとりの利用者の特性を活かした支援をしている。誕生日の昼食メニューに好物を取り入れたり、利用者が出来る事を見つけて一緒にすることを心掛けている。意思表示が難しい利用者は、表情や仕草、行動の変化や今までの生活状態から判断し支援している。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に聞き取り、把握に努める。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活のペースを見出し、より良い生活が出来るように管理をしています。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族から要望を聞き取り、毎日の生活の中からご本人が必要とするケアを、話し合いプランに反映しています。	介護計画書は、状態変化時以外は半年を目処に、利用者の担当職員が作成しケアマネが確認している。担当職員を中心に個々の利用者の状態について職員間で話し合っている。家族には計画書を説明し了承を得ている。モニタリングは半年で見直しているが、記録が目標に即した内容にはなっていない。	目標に即した内容を項目ごとに記載される等の工夫があると、経験の浅い職員にも分かりやすいのではないかと。
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の変化を朝・夕の申し送りで早めの情報伝え、記録や実践、プランの見直しに活かしています。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人にあった柔軟な個別サービスに取り組んでいます。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事や保育園との交流、青年団との避難訓練の交流が出来るよう機会を設けていますが、コロナウイルス感染の為に交流がストップしています。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご家族の意向を伺い主治医との連携に努めています。	利用者及び家族の意向を優先しているが、ほとんどが隣接する協力医療機関を主治医としている。月2回の訪問診療と日々の健康管理により利用者の心身状態を把握している。皮膚科等他科受診時は、家族が付き添っている。歯科は、毎月の訪問による口腔ケアの体制があり、希望者は治療も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する医院の看護師との連携体制が整えています。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	有床診療所が隣接しており、ご本人の状態、ご家族の意向を聞き取り、入院回避に努め、医師との状態報告、連携も行っています。	利用者の状態変化や急変の際は、他医療機関も含め迅速な対応が確保されているが、利用者の意向を尊重し、可能な限りホームでの生活を大事にしている。主治医や訪問看護師とは密に連携を図っている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームのできるかぎり、終末期に向けての早い段階からのご家族の意向を聞きご本人が穏やかに終末を迎えられるように、関係者と共有し、ケアに取り組んでいます。	契約時にホームのできることを説明し、終末期までの安心できる体制があることを伝えている。利用者の状態変化や入院があった場合は、早期に家族を交え、今後の状況や終末期に至る過程を説明し、家族等の意向を確認する。家族が安心して共に過ごせる環境を用意することで、自宅に近い形で見送ることができている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	落ち着いて行動が対応出来るよう、マニュアルを作成し、隣接する医院と連携も備えています。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	研修資料をもとに「災害時における安全確保の取り組み地域との防災」対応が即座に出来るよう常に意識して、地域との協力体制も築いています。	定期的な年2回の避難訓練は行っているが、運営推進会議の開催ができないことから、地域と協力しながらの実践は困難である。それでも運営推進会議メンバーである各自治会長の来訪により、情報交換は継続して行っている。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応時に声掛け、介助時も周りに対しても配慮を行っています。	利用者の重度化が進み、一人ひとりへの丁寧な対応を心がけている。フロアによりある程度の介護度に準じた個別ケアができるよう配慮している。例えば、途中で居室が移動することもあり得ることを事前に説明している。利用者間の関係性にも注意し、こまめに声かけしている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	柔軟に自己主張ができる環境を整えています。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせた生活が出来るように、できるかぎりの希望に沿って対応しています。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活の中で整髪、散髪、更衣時に声掛け、身だしなみに気をつけるように支援しています。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューを工夫して美味しく食べれるように作り、時々出前を取ったり、手作りおやつを作り、楽しさと、出来るところはお手伝いをお願いします。	外食することがなくなり楽しめる機会として、出前の寿司をとったり、食べたい物を取り寄せ、いつもと違う食事の機会を設けたり、おやつを手作りする機会を増やすなど、少しでも共に楽しめる場をつくっている。個々の嚥下状態にあわせた食事形態、盛り付けの工夫にも努めている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態把握、食事(ミキサー食・刻み)・水分摂取量を管理して体調管理を行いながら食事が入らない方には高カロリー飲料も提供しています。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者に応じた方法で口腔内のケアを行うが、いのできない方にはお茶を飲むことで口腔を清潔に保つように、月1回衛生士さんによる口腔内の点検をおこなっています。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はできるかぎり布パンツにて、トイレ誘導だ排泄パターンを出し、排泄リズムを整え、夜間もできるかぎりトイレの声掛けをしている。	トイレでの排泄を基本にしつつ、できるだけ布パンツを使用してもらうことで、その人なりの自立を目指している。日々の丁寧な記録と観察、その人の習慣や癖から様子を察知し、早めの声かけにより失敗を減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつに寒天ゼリーの繊維質な物を取り入れ、毎日のおやつに飲むヨーグルトで工夫、個々の排泄管理も行っています。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日中は個浴をできる方はゆっくり入浴頂けるようにしています。	自立の人は、一人でゆっくり個浴に浸かってもらっている。車椅子を使用している人など介助が必要な場合は機械浴を使用し、安心して入浴できるよう支援している。重度化してもできるだけ湯舟につかってもらうことを大事にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前・午後も高齢の為食後、休憩時間を取っています。状況に応じた対応管理も行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からくる処方箋を、職員が管理し、変化があれば薬局に問い合わせ確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活におやつ作りや音楽に合わせて体操を取り組み、時々カラオケも楽しんでいます。外食に出かけられない為に寿司出前も喜ばれています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染の為ご家族と外出・外食が出かけられず、ホーム内での楽しみを作るように工夫しています。	現在のところ外出はできないが、ドライブついでに、季節の花を見に行ったり、気分転換を図るようにしている。時には、来店客が少ない折をみて、コンビニに買い物に行くことはある。ホーム内ではあるが、クリスマス会やもちつきなど季節に応じて行事を楽しんでいる。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症が進むと金銭感覚がなくなり、保管されている方は使えるように支援している。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に会いたくなつた時には、お声がけ聞けるように電話を活用しています。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に過ごせるように、掃除、空気の入替え、心地良い生活が出来るように出来るように配慮しています。	定期的な空気の入替え換気には注意し、こまめに消毒するなど、清潔な環境に努めている。ホーム内での生活に限られているが、利用者が居心地よく過ごせるよう、特に家具の配置などを変えことなく馴染みやすい環境を心がけている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お部屋でご自由に過ごされたり、フロアで皆さんと過ごされたり、ご自由に生活空間で過ごしています。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの持ち物、使い慣れた物も持参して頂き、落ち着いて生活が出来るように配慮しています。	ゆとりある広さが確保され、洗面台とトイレが備えつけられている。利用者によっては、自分の部屋で好きなテレビを観たり、食後横になって休んだり、思い思いのペースで過ごしている。自宅から持参した整理ダンスや椅子など、使い勝手良く配置されている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫をして、お部屋を間違わないように、わかりや、大きく名前を書いたり、できる限り自立で生活が送れるように取り組んでいます。		

(様式2)

事業所名:グループホーム 生き生き

目標達成計画

作成日: 令和 3年 12月 25日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		加齢による重度化	個々によるケア	年齢が進むにつれて、食事・水分もご自分で摂取が出来る事が困難になり、介助の方が多くなっています。又、車椅子対応の方が増え、個々にあった状態に合わせた介助と日々の体調管理まめに行う。	随時
2		コロナ渦の中でご家族様の面会、外出も制限もあり 毎日の生活が楽しみをつくる。	入居者の方と向き合い安定した生活	温かい雰囲気作りを行う。 楽しみがもてる食事・おやつ・生活作りを行う	随時
3					
4					月
5					月

(様式3)

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取 り 組 ん だ 内 容 (↓ 該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他(評価機関の選択は専門的、客観的な評価をもとに質の向上を図るとともに利用者の適切なサービスの支援を見て頂いています)
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他(今までは違い、面会外出出来ない状況を踏まえて生活の質の向上に努め職員の意見を反映し、会議で話し合う)
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他(コロナの為、運営推進会議が行えず、意見交換できないが、結果資料は配布します。職員とは結果をもとに話し合う)
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他(職員がサービスの質の向上、達成感を目的に活用する。運営推進会議委員の方には評価として資料を作成します。)